

(3) 日常生活圏域ごとの状況

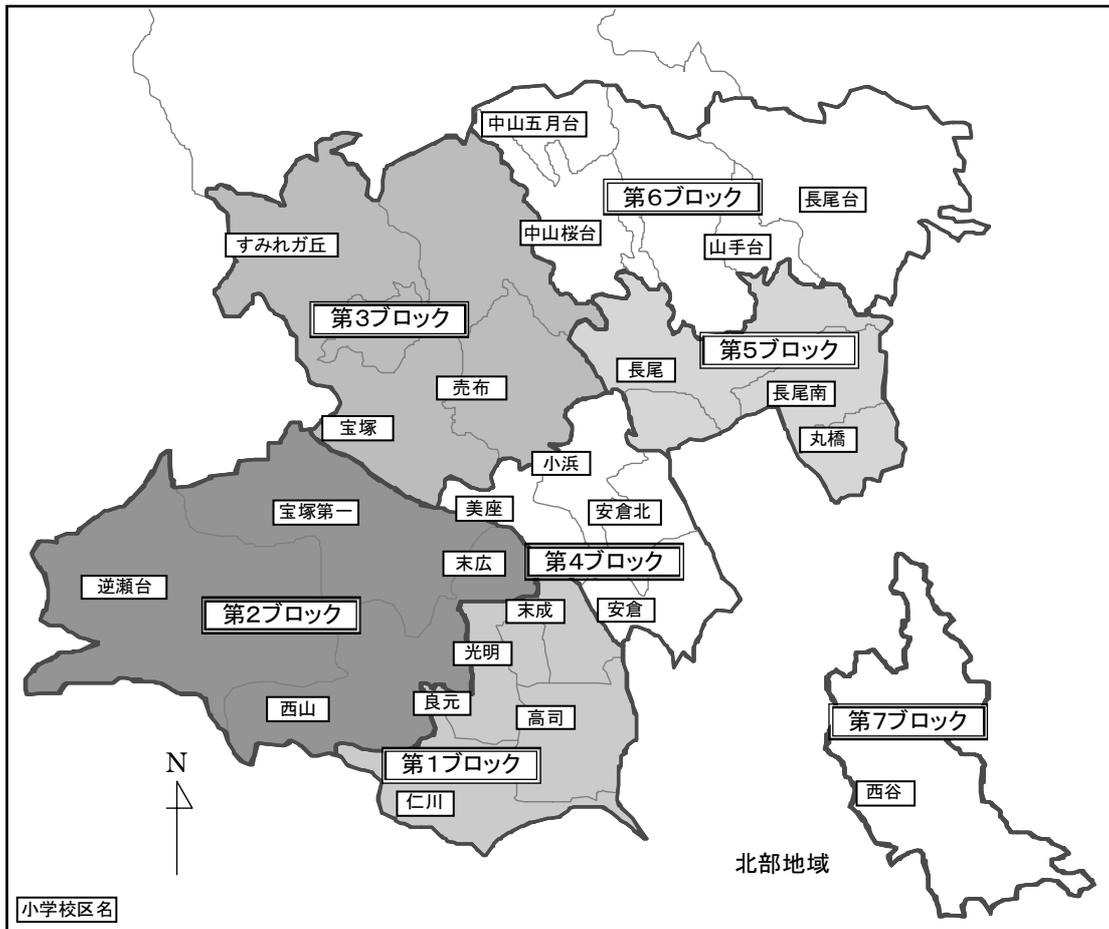
ア 日常生活圏域の設定

介護保険事業計画では、認知症の人、ひとり暮らし高齢者等が住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、高齢者が日常生活を営んでいる地域を中心とし、必要な介護保険サービス等の基盤整備のあり方を明らかにするため、地域特性に応じた日常生活圏域を設定することとされています。

本市では、まちづくり活動等に基づく7つの地域割が定着し、その地域割に依拠して高齢者施策を推進してきた経緯があり、さらに人口規模や社会的条件等も総合的に勘案して、この7つの地域割を日常生活圏域と設定しています。

今後、在宅での生活を望む要介護・要支援高齢者が、住み慣れた地域でのつながりを失うことなく、必要な介護保険サービス等が継続的・包括的に提供できるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を推進していきます。

日常生活圏域



イ 日常生活圏域の概況

7つの日常生活圏域のうち、最も人口規模の大きな圏域は、第2ブロックの48,129人（65歳以上人口14,535人）であり、最も人口規模の小さな圏域は、第7ブロック（西谷地区）の2,538人（65歳以上人口1,076人）となっています。

また、高齢化率が最も高い圏域は、第7ブロックの42.4%であり、次いで、第6ブロックの30.8%となっています。

要介護・要支援認定率が高い圏域は、第7ブロックの22.7%であり、次いで、第4ブロックの21.1%、第1ブロックの20.5%となっています。

高齢化率、要介護・要支援認定率とも、第7ブロックが他のブロックより高い数値となり、市内でも高齢社会の地域性が顕著に表われています。

本市の地域的な特徴として、高度成長期に開発されたニュータウンが人口急増期を経て、人口減少期に入るなか、「空き家問題」「老老介護」などの諸問題を抱えています。また、開発時期の異なるニュータウンが市内に点在しており、同様の課題が複数地域で起こる可能性があります。

本市の「まちづくり協議会」は、小学校区単位を基本として組織されており、その区域で見ると、光明地域まちづくり協議会、逆瀬台小学校区まちづくり協議会、中山台コミュニティ、西谷地区まちづくり協議会の区域で、高齢化率が40%前後と高い数値を示しています。一方、市街地農地を有する長尾地区まちづくり協議会などで、宅地化が進み、局地的な人口急増が見られるなど、地域の特性を踏まえた課題の解決方法を考えていく必要があります。

また、市の面積の3分の2を占め、集落が分散化した北部地域と、人口が集中している南部市街地では、高齢化の課題が異なるため、多様な高齢化の課題に対応する必要があります。

日常生活圏域の概要



日常生活圏域名	地域（小学校区名）
第1ブロック（小林）	仁川・末成・高司・良元・光明小学校区
第2ブロック（逆瀬川）	末広・宝塚第一・西山・逆瀬台小学校区
第3ブロック（御殿山）	宝塚・すみれガ丘・売布小学校区
第4ブロック（小浜）	小浜・美座・安倉・安倉北小学校区
第5ブロック（長尾）	長尾・長尾南・丸橋小学校区
第6ブロック（花屋敷）	山手台・長尾台・中山五月台・中山桜台小学校区
第7ブロック（西谷）	西谷小学校区

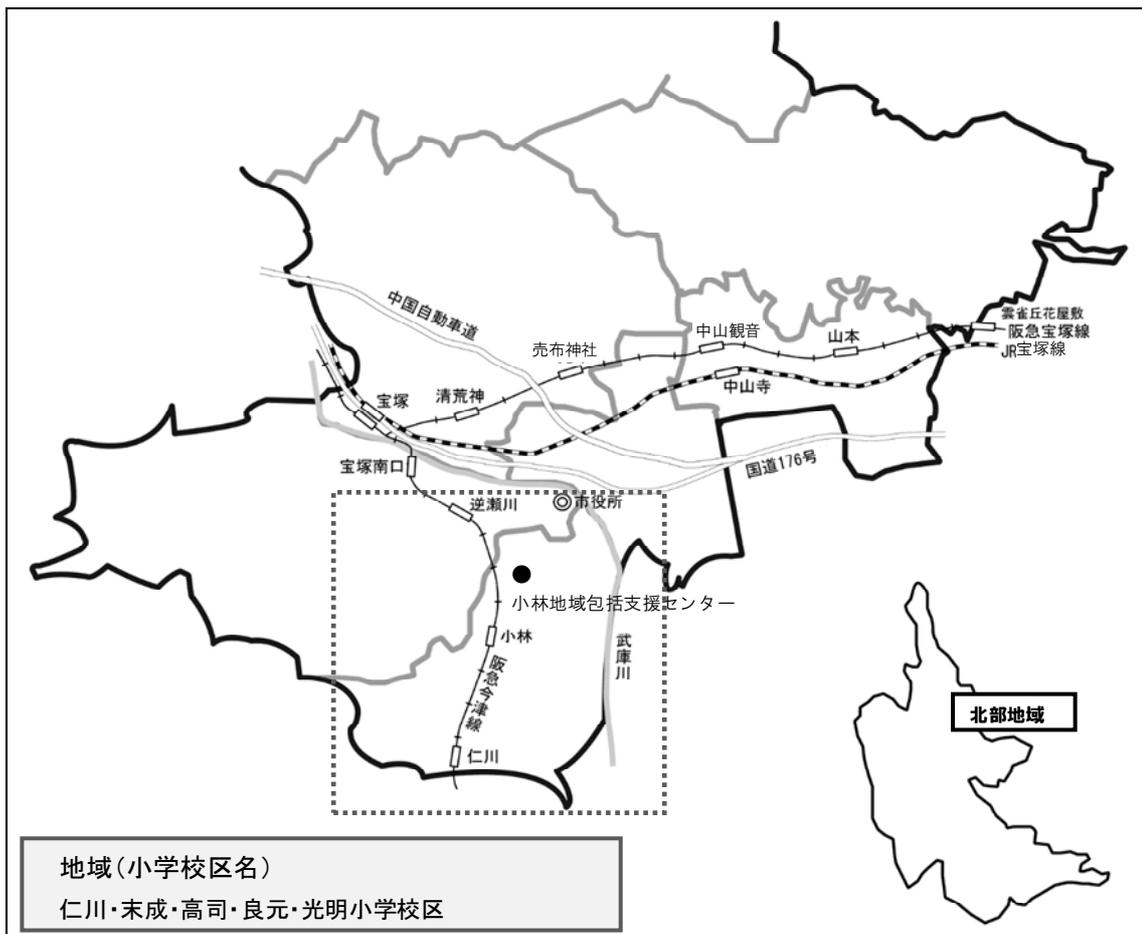
(ア) 第1ブロック

第1ブロックは、本市人口の17.6%、高齢者人口の19.0%を占め、市内で2番目に人口及び高齢者人口の多い地域です。高齢化率は29.0%であり、本市平均を2.1ポイント上回っており、20.5%の高齢者が要介護・要支援認定を受けています。

本ブロックは、本市南部の武庫川右岸に広がる地域であり、阪急今津線の沿線となる地域です。阪急今津線の東側は、商業住宅地域と本市唯一の工業地域を有し、西側に住宅地が形成されています。近年、工場の市外転出により住宅地化が進行しています。

六甲山地の山麓部は、閑静で緑豊かな住環境を有する低層住宅地として発展しました。傾斜地に立地する戸建住宅は、居住水準や住環境の面から良好な住宅街を形成していますが、世帯の高齢化と小規模化が進行しています。

平坦部の地域は、昭和30年代以降、スプロール状の市街地化が急速に進行しました。歩いて暮らせるまちづくりなど、人口減少社会に向けた都市づくりの取組が必要となっています。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、咀嚼機能を除いて市全体より少ないか、平均値と変わらないものが多く、社会参加状況では、スポーツ、趣味、学習活動への参加状況が市全体より低めとなっています。

また、賃貸住宅に居住する人の割合は18.7%であり、市全体より4.4ポイント高いほか、今後行いたい地域活動として「体操」をあげる人が比較的多めとなっています。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

(単位：%)

項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	11.2	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	14.1
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	8.7	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	23.0
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	26.8	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	34.8
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	10.1	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	10.3
認知症リスク高齢者の割合	41.1	40.1	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	61.4
うつリスク高齢者の割合	38.3	37.6	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	34.0
IADLが低い高齢者の割合*	3.3	3.8	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	73.6
転倒リスク高齢者の割合	29.1	28.5	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	43.7

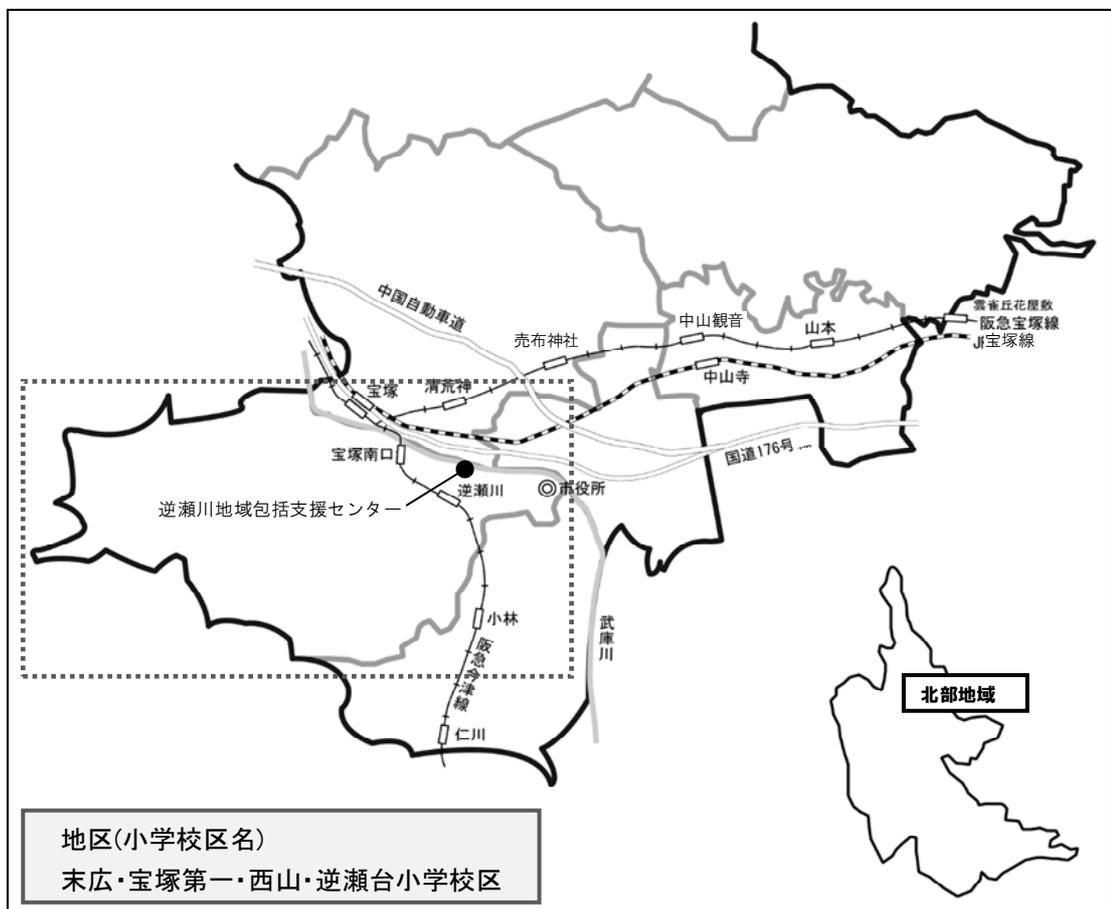
* IADLが低い高齢者：「一人で外出する」「買い物ができる」「食事の用意ができる」「請求書の支払いができる」「預貯金の出し入れができる」の質問項目のうち、2つ以上できないものがある人をいう。

(イ) 第2ブロック

第2ブロックは、本市人口の20.5%を占め、最も人口が多い地域であるとともに、本市高齢者人口の23.1%を占めており、高齢者人口が最も多い地域です。高齢化率は30.2%であり、本市平均を3.3ポイント上回り、18.8%の高齢者が要介護・要支援認定を受けています。

本ブロックは、本市西部の武庫川右岸に広がる阪急今津線沿線の地域であり、阪急今津線の西側の丘陵地は、自然豊かな閑静な住宅地となっています。

傾斜地に立地する戸建住宅は、居住水準や住環境の面で良好な住宅街を形成していますが、近年は、世帯の小規模化と高齢化が進行しています。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、転倒や閉じこもり、栄養改善の面で市全体を上回っています。一方、社会参加状況では、スポーツ、趣味、学習活動への参加状況が市全体を上回っています。

また、今後行いたい地域活動やボランティア活動では、人が集う場の運営や生活支援、子育て支援などをあげる人が多く見られます。

[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果]

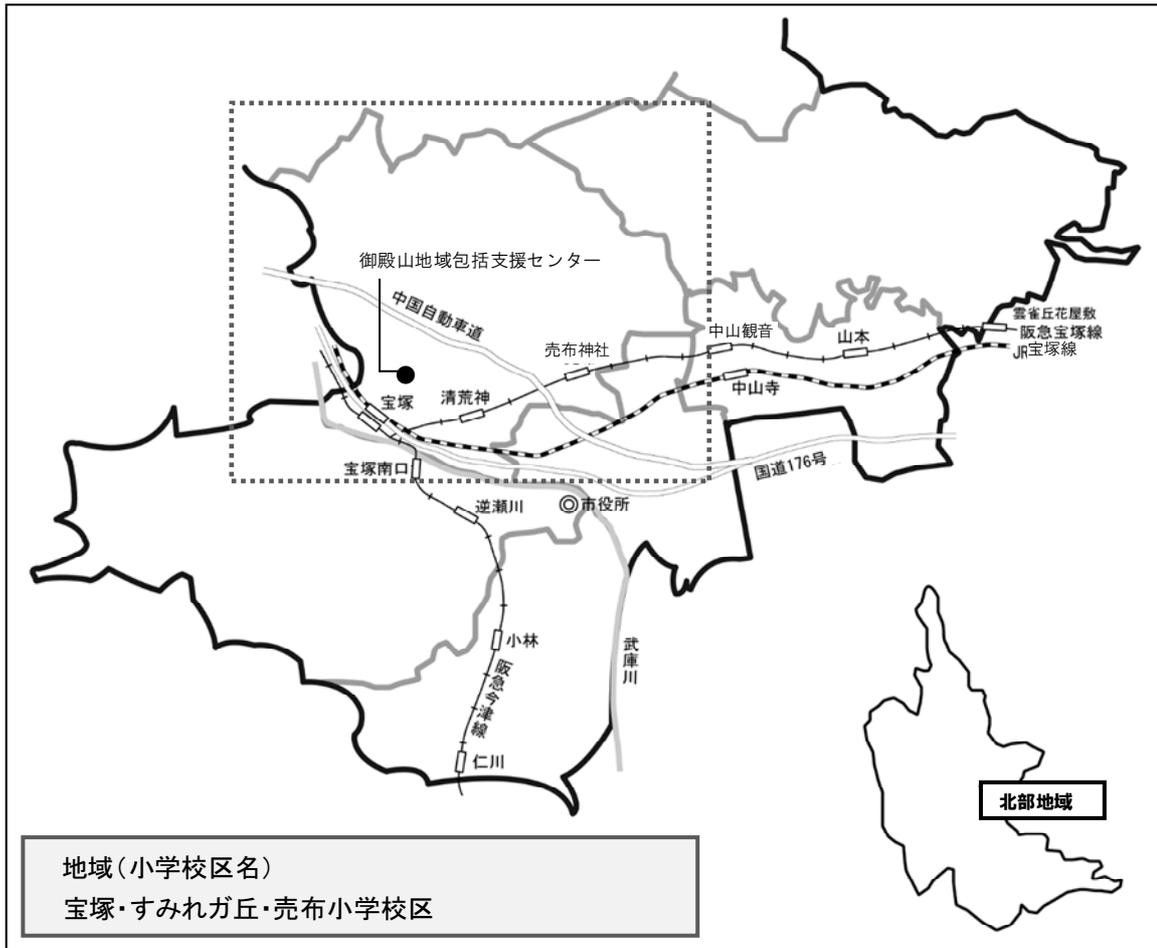
(単位：%)

項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	12.6	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	14.2
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	10.6	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	29.7
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	24.5	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	42.0
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	13.2	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	16.3
認知症リスク高齢者の割合	41.1	38.0	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	59.9
うつリスク高齢者の割合	38.3	37.2	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	35.8
IADLが低い高齢者の割合	3.3	2.6	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	75.5
転倒リスク高齢者の割合	29.1	31.7	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	49.0

(ウ) 第3ブロック

第3ブロックは、本市人口の17.6%、本市高齢者人口の15.9%を占めています。高齢化率は24.4%であり、本市平均を2.5ポイント下回っており、18.6%の高齢者が要介護・要支援認定を受けています。

本ブロックは、商業・業務、観光・文化施設が集積する本市の中心市街地を含む地域であり、平坦部は住商混在地区、丘陵部は住宅地区となっています。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、運動器機能や転倒の面で市全体を上回っています。また、社会参加状況では、スポーツ、趣味、学習活動や地域づくり（参加者として）への参加状況が市全体を上回っています。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

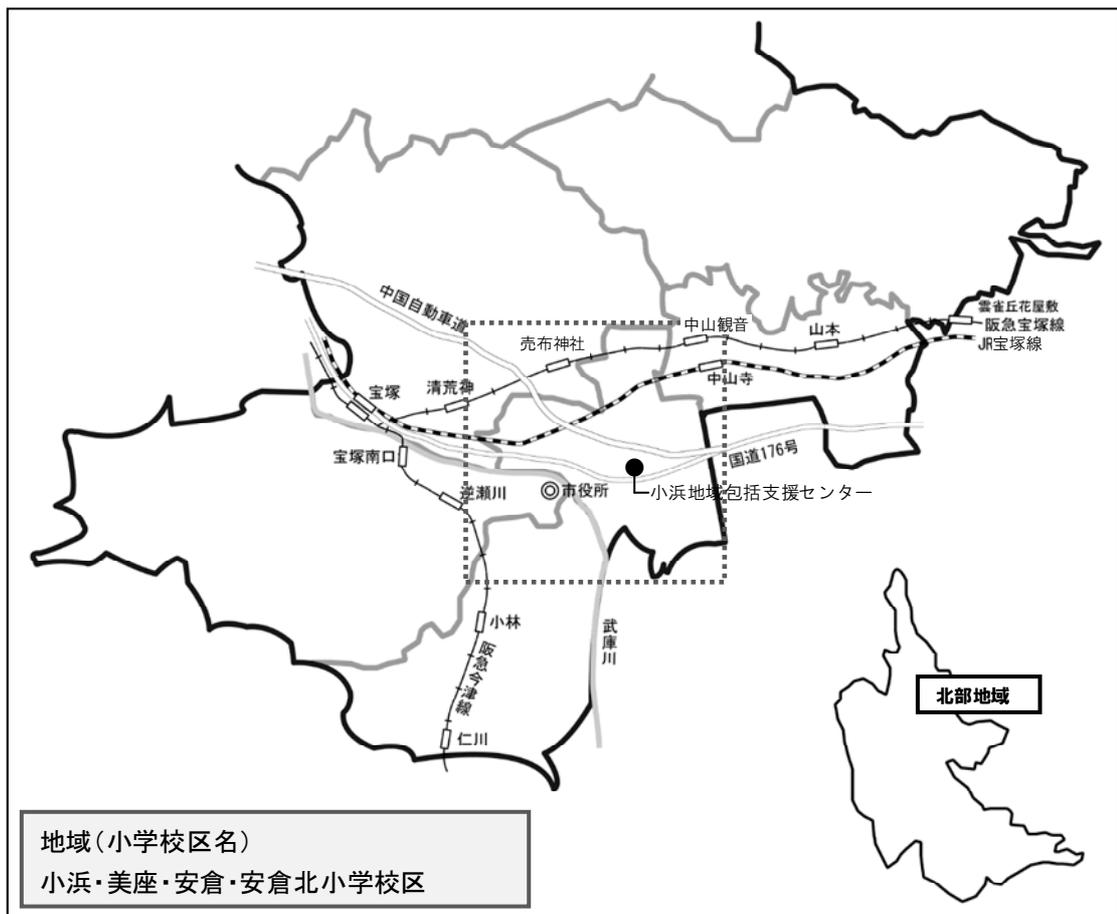
（単位：％）

項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	14.0	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	14.6
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	8.8	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	28.4
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	25.6	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	40.0
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	10.1	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	13.8
認知症リスク高齢者の割合	41.1	41.7	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	62.8
うつリスク高齢者の割合	38.3	37.4	地域づくりへの企画・運営（お世話役）としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	32.9
IADLが低い高齢者の割合	3.3	2.4	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	72.5
転倒リスク高齢者の割合	29.1	31.4	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	50.1

(エ) 第4ブロック

第4ブロックは、本市人口の13.5%、本市高齢者人口の13.6%を占めています。高齢化率は26.9%であり、本市平均と同じで、21.1%の高齢者が要介護・要支援認定を受けています。

本ブロックは、武庫川左岸の平坦な地域であり、一戸建て、集合住宅、商業施設が混在し、古くから市街地が形成された地域です。宝塚市立病院や総合福祉センターなどの公共施設が立地する地域でもあります。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、認知症やうつ、運動器機能などの面で市全体を上回っています。社会参加状況では、ボランティア、スポーツ、趣味、学習活動への参加状況が、市全体より低めとなっています。

また、ひとり暮らしの割合は、31.4%であり、市全体より4.0ポイント高いほか、話が合う相手がない、外出する用事がないという人や人付き合いが苦手という人が比較的多く見られます。

一方、今後行いたい地域活動やボランティア活動では、ご近所の見守り活動や体操、環境美化・緑化活動、交通安全・防犯活動など、市内の各ブロックを通じて最も高い関心が寄せられています。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

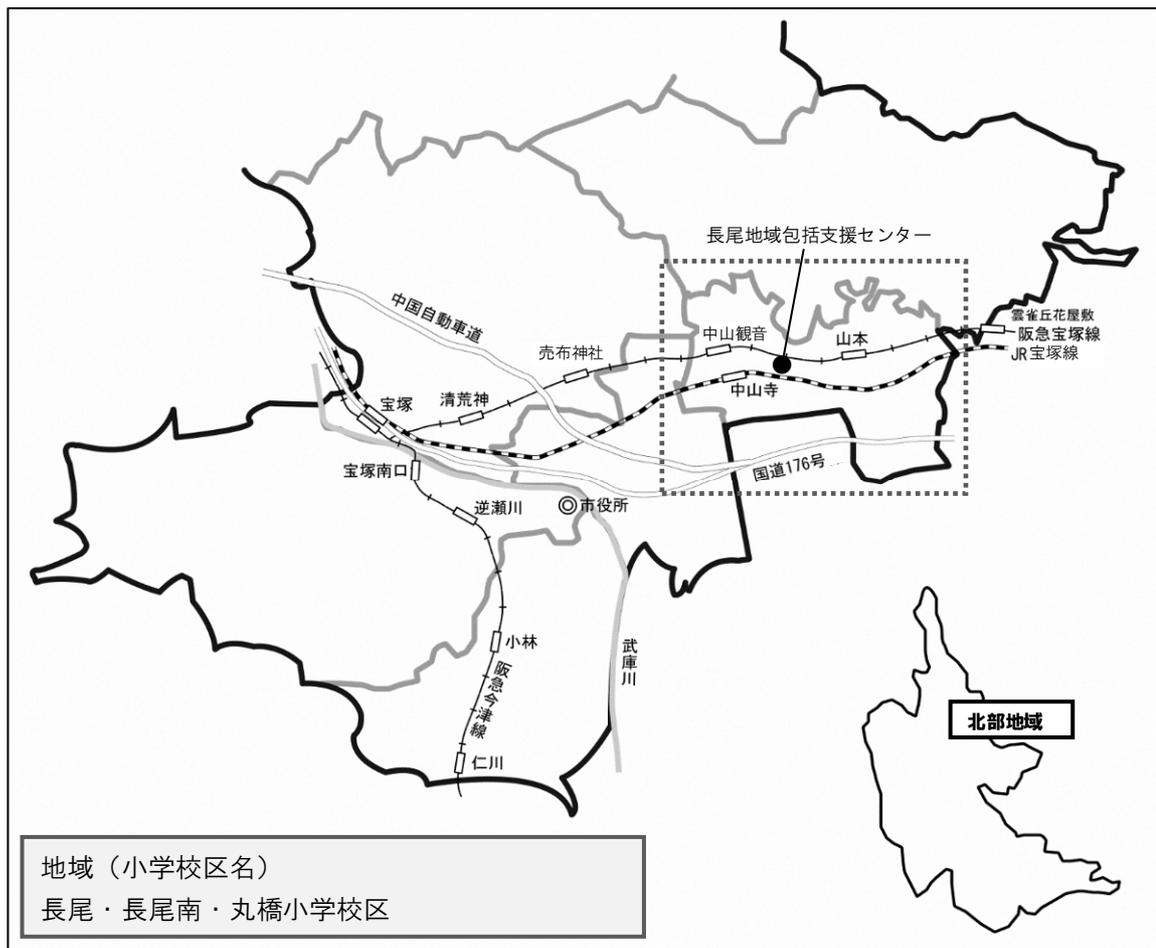
(単位：%)

項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	14.4	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	13.3
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	8.2	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	25.0
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	26.1	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	35.3
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	11.7	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	10.6
認知症リスク高齢者の割合	41.1	44.6	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	61.4
うつリスク高齢者の割合	38.3	40.8	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	36.1
IADLが低い高齢者の割合	3.3	3.8	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	75.3
転倒リスク高齢者の割合	29.1	24.7	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	43.8

(オ) 第5ブロック

第5ブロックは、本市人口の16.9%、本市高齢者人口の12.1%を占めています。高齢化率は19.3%であり、本市平均を7.6ポイント下回り、最も高齢化率の低い地域となっています。要介護・要支援認定者の割合も17.5%であり、本市平均を2.0ポイント下回っており、元気な高齢者が比較的多い地域です。

本ブロックは、本市東部のJR宝塚線及び阪急宝塚線沿線の地域であり、南斜面丘陵地、平坦部田園地域に住宅地を形成しています。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、運動器機能や閉じこもり、転倒、認知症、うつなど多くの面で市全体を上回っています。社会参加状況では、スポーツ、趣味、学習活動への参加状況が市全体より低めとなっています。

また、賃貸住宅に居住する人の割合は18.7%であり、市全体より4.4ポイント高いほか、今後行いたい地域活動として、高齢者・障がい者の支援をあげる人が比較的多くなっています。

外出を控えている割合は18.2%であり、市全体で2番目に高く、その理由として、ほかのブロックと同様に、「足腰などの痛み」が57.8%を占めているほか、「病気」、「外での楽しみがない」及び「交通手段がないこと」が、第7ブロックを除き、各ブロックの中で最も高い割合となっています。移動交通手段の割合は、「電車」「バス」とも、本市平均を下回っています。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

(単位：%)

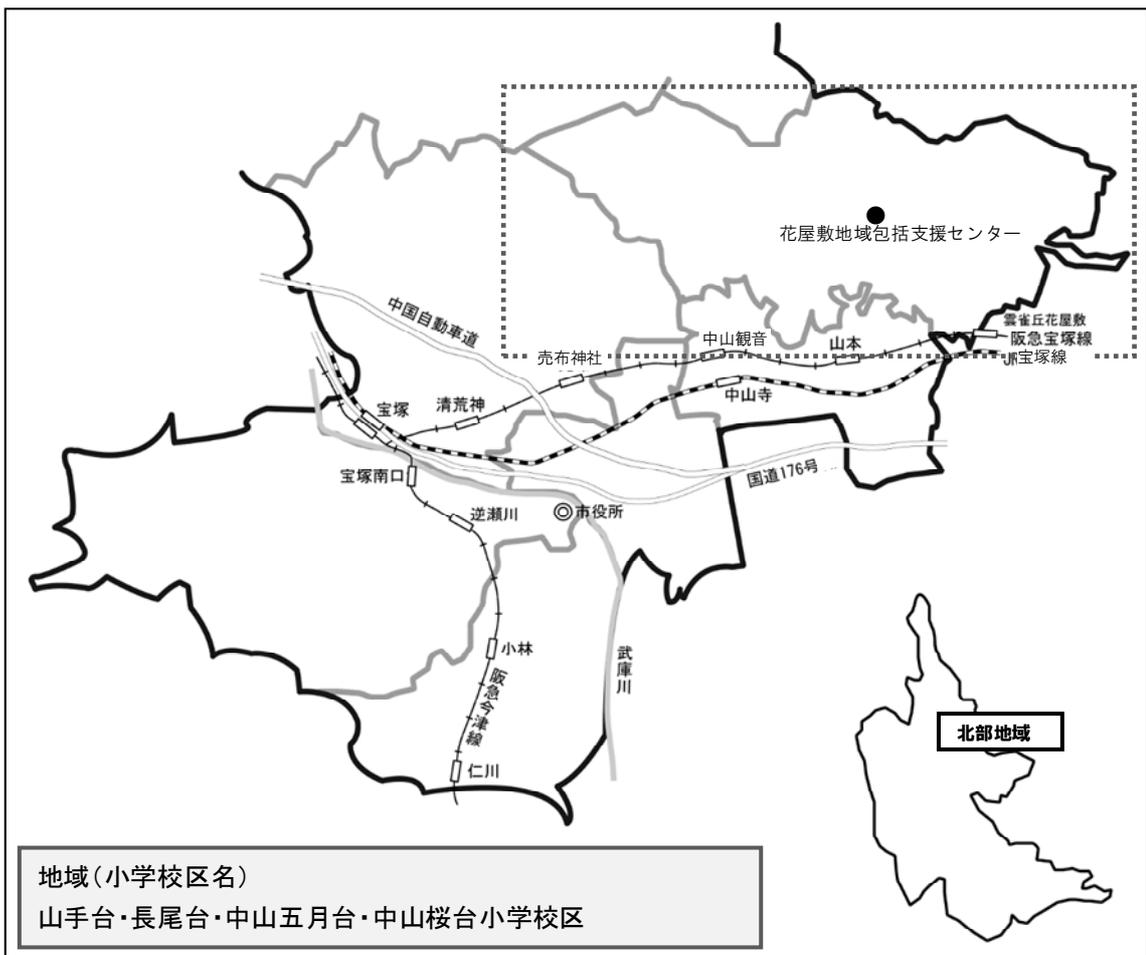
項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	14.0	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	13.1
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	6.9	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	20.9
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	25.7	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	30.3
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	15.1	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	11.1
認知症リスク高齢者の割合	41.1	42.9	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	61.7
うつリスク高齢者の割合	38.3	44.0	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	36.0
IADLが低い高齢者の割合	3.3	3.4	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	74.0
転倒リスク高齢者の割合	29.1	31.1	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	43.1

(カ) 第6ブロック

第6ブロックは、本市人口の12.8%、本市高齢者人口の14.6%を占めています。高齢化率は30.8%であり、本市平均を3.9ポイント上回っていますが、認定率は17.1%であり、本市平均を2.4%下回っています。

本ブロックは、本市北東部のJR宝塚線及び阪急宝塚線沿線の地域であり、丘陵地に閑静な住宅地を形成しています。

昭和40年(1965年)以降、大規模開発などにより新たな宅地開発が進み、現在も計画的な住宅地開発が進められています。一方で、世帯の高齢化と小規模化、それに伴う人口減少や少子化・高齢化が急速に進みつつあります。この現状は、いわゆる「団塊の世代」を中心とする多数の人々が同時期に入居したことによるものであり、「団塊の世代」が後期高齢者となる平成37年(2025年)には、人口に占める後期高齢者人口の割合が、第7ブロックを除き、本市で最高になると見込まれます。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、認知症を除き、市全体より少ないか、平均値と変わらないものが多く、社会参加状況では、ボランティア、スポーツ、趣味、学習活動への参加状況が、市全体より高めとなっています。

また、夫婦のみで暮らす人の割合は55.5%であり、市全体より8.6ポイント高いほか、持ち家比率が90.0%、移動手段として自分で車を運転する人が48.9%を占めています。

今後の定住意向では、環境が気に入っているので今後とも住み続けたいという人が多く見られますが、その反面、買い物や通院、公共交通で不便を感じる人も多く見られます。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

(単位：%)

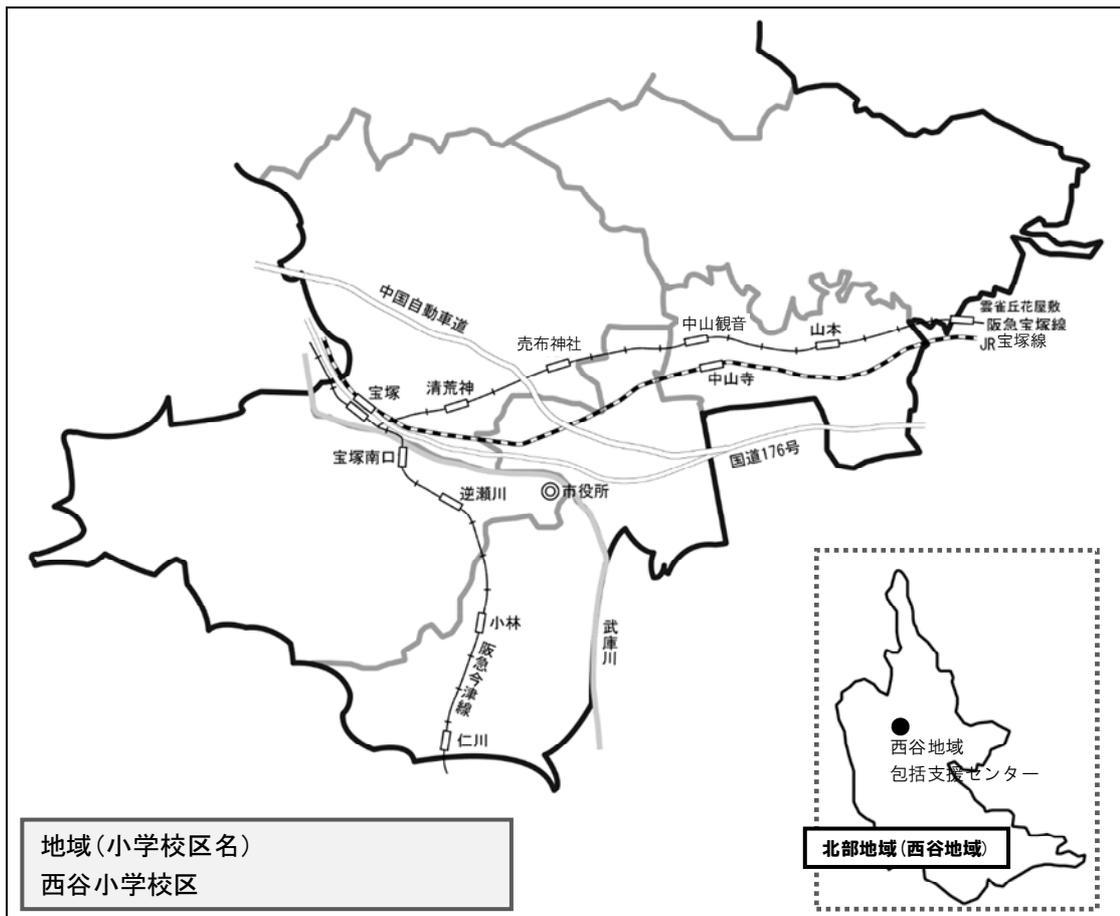
項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	10.6	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	15.6
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	8.2	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	30.5
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	24.0	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	41.8
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	11.5	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	13.6
認知症リスク高齢者の割合	41.1	42.6	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	61.7
うつリスク高齢者の割合	38.3	36.4	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	33.3
IADLが低い高齢者の割合	3.3	4.1	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	80.7
転倒リスク高齢者の割合	29.1	23.8	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	56.7

(キ) 第7ブロック

第7ブロックは、本市人口の1.1%、本市高齢者人口の1.7%を占めています。高齢化率は42.4%であり、本市平均を15.5ポイント上回り、市内で最も高齢化の進んだ地域となっています。

また、地域の高齢者の22.7%が要介護・要支援認定を受けています。

本ブロックは、本市北部の西谷地域であり、市域面積の70%を占める自然豊かな地域として都市近郊の農業地域となっています。



第2章 高齢者を取り巻く状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、介護予防事業が必要と思われる高齢者の割合は、転倒と閉じこもりで、市全体を大きく上回っています。社会参加状況では、ボランティア活動や地域活動への参加状況が市全体より高めとなっています。

また、介護・介助が必要な人の割合は20.0%であり、市全体より12.9ポイント高いほか、持ち家比率は95.0%であり、移動手段として自分で車を運転する人が62.5%を占めています。

公共交通で不便を感じる人が多く、外出を控えている人の理由についても、交通手段がないことをあげる人が多く見られます。

〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による分析結果〕

(単位：%)

項目	市全体	ブロック	項目	市全体	ブロック
運動器機能リスク高齢者の割合	12.7	15.4	ボランティア等に参加している高齢者の割合	14.4	23.1
栄養改善リスク高齢者の割合	8.7	5.1	スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合	26.5	25.6
咀嚼機能リスク高齢者の割合	25.4	25.6	趣味関係のグループに参加している高齢者の割合	37.8	30.8
閉じこもりリスク高齢者の割合	12.3	38.5	学習・教養サークルに参加している高齢者の割合	12.9	12.8
認知症リスク高齢者の割合	41.1	33.3	地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合	61.5	66.7
うつリスク高齢者の割合	38.3	28.2	地域づくりへの企画・運営(お世話役)としての参加意向のある高齢者の割合	34.7	35.9
IADLが低い高齢者の割合	3.3	5.1	主観的健康観の高い高齢者の割合	75.2	74.4
転倒リスク高齢者の割合	29.1	43.6	主観的幸福感の高い高齢者の割合	47.9	48.7

ウ 日常生活圏域別の人口推計

今後の人口を日常生活圏域（7ブロック）別に推計した結果は、次のとおりです。

人口総数は、第1ブロックで増加傾向が続きますが、第2・第3・第5ブロックでは第7期計画の中にピークを迎え、その後、減少に転じます。第4・第6・第7ブロックでは、今後、減少傾向が続きます。

また、高齢者人口のうち、75歳以上の後期高齢者人口は、今後、すべてのブロックで増加傾向が続きますが、65歳～74歳の前期高齢者人口は、今後、第3・第5ブロックを除き、各ブロックで減少します。

◆年齢区別の人口推計結果（ブロック別）

（単位：人）

年 齢	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
第1ブロック	41,266	41,385	41,475	41,558	41,665
65～74歳	6,148	6,028	5,896	5,870	4,878
75歳以上	5,812	6,078	6,322	6,460	7,693
高齢化率	29.0%	29.3%	29.5%	29.7%	30.2%
第2ブロック	48,129	48,273	48,377	48,449	48,370
65～74歳	6,832	6,716	6,489	6,451	5,301
75歳以上	7,703	7,919	8,145	8,260	9,434
高齢化率	30.2%	30.3%	30.2%	30.4%	30.5%
第3ブロック	41,235	41,331	41,406	41,454	41,313
65～74歳	5,131	5,131	5,131	5,233	5,005
75歳以上	4,912	5,125	5,273	5,346	6,442
高齢化率	24.4%	24.8%	25.1%	25.5%	27.7%
第4ブロック	31,753	31,605	31,431	31,252	30,182
65～74歳	4,442	4,369	4,276	4,235	3,390
75歳以上	4,103	4,291	4,475	4,564	5,463
高齢化率	26.9%	27.4%	27.8%	28.2%	29.3%
第5ブロック	39,586	39,636	39,647	39,644	39,372
65～74歳	4,041	3,971	3,961	3,983	3,511
75歳以上	3,614	3,844	4,062	4,216	5,382
高齢化率	19.3%	19.7%	20.2%	20.7%	22.6%
第6ブロック	29,927	29,924	29,900	29,855	29,328
65～74歳	4,727	4,605	4,456	4,392	3,499
75歳以上	4,480	4,699	4,895	5,010	5,981
高齢化率	30.8%	31.1%	31.3%	31.5%	32.3%
第7ブロック	2,538	2,474	2,413	2,356	2,068
65～74歳	530	531	518	507	367
75歳以上	546	549	564	569	663
高齢化率	42.4%	43.7%	44.8%	45.7%	49.8%